

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

令和4年3月11日（金）開催の「最終評価会」での発表内容、配布資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	南 博信
-----------	------

## 1. 5年間における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	b
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	a
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
<p>広範な地域をカバーするプランであるためe-learningや遠隔コミュニケーションのシステムを利用していたこともあり、COVID-19下で活動が制限される中でも活動を継続できている。</p> <p>様々な活動の中でも、特に合同の症例カンファレンスおよび学生による研究成果発表などは教育効果が高い活動であったと思われる。その他の研修会、セミナー、勉強会、特別講演等多数実施しており、教育効果があったようである。</p> <p>学生の確保という点では、一部のコースでは目標を上回る学生を受入れており高く評価できる。一方で受入目標に届かなかったコースや入学者が5年間で全くいなかったコースも多く、大学間・コース間の差が大きい。学部学生が開業医の子女が多い大学ではがん治療の大学院コースの学生を確保することはできなくても、サバイバーのFollowなどがん関連の地域医療に興味をもたせるような活動を行うなど特性や地域性などに合わせた活動をした大学もあった。今後のさらなる活動を期待したい。</p> <p>がんゲノム医療に携わる医療人の育成は活発に行われているが、がんゲノム医療中核拠点病院あるいはがんゲノム医療拠点病院の活動と重複する活動も多い。エキスパートパネルでは臓器横断的にがん薬物療法を体系的に理解しているがん薬物療法専門医が必須である。がん薬物療法専門医や放射線治療専門医の資格取得者が少ないのは残念である。大学院在学中にがん薬物療法専門医の資格取得は難しいと思われるが、修了生に対し症例要約作成の指導を協力して実施している点は評価できる。ただし、これらの資格取得者が全くいない大学・コースもあり、改善すべき点として対策が求められる。</p> <p>インテンシブコースでは受入目標を大きく上回る受講生を確保できている点はすばらしい。大学院の学生が確保できなくてもインテンシブコースを通じて専門医取得を目指す医師の増加につなげていただきたい。</p> <p>全体としては活発に活動しており成果も上がっているものと評価できる。本プラン終了後も事業運営推進協議会を中心に今後も活動を継続したいとのことであるので、それぞれの大学の特徴を活かしながらがん医療人を育成することを期待したい。</p>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	主幹校として活発に活動し多くの学生を確保し、専門医も輩出できている。希少がんセンターを立ち上げたことは評価できる。希少がん診療に関して他の地域との連携体制も構築してほしい。
福岡大学	開業医の子女が多く、学生の確保が困難だったようである。一方、サバイバーの診療など地域医療に目を向けた教育を開始しており、がん患者およびサバイバーを地域で支える体制構築につながる活動と思われる。
久留米大学	大学院入学者が確保できなかったが、色々な情報発信の努力はしていたようである。
佐賀大学	一定の学生数を確保し専門医の資格も取得させている。また、さが・がんと生殖医療Networkを構築し、重要な問題に取り組んでいる。
長崎大学	離島・僻地医療の実習と取り入れ卒業生が離島・僻地の医療に携わるなど、地域の特徴に沿った教育活動をしている。医師・歯科医師の学生は確保できたが、薬剤師の学生が確保できなかった。がん薬物療法には薬剤師も必須であり、対策を期待したい。
熊本大学	一定の学生数は確保できたが、資格取得は外科系の専門医がほとんどで、がん薬物療法専門医、放射線治療専門医を輩出できていない。
大分大学	一定の学生数は確保できたが、がん薬物療法専門医、放射線治療専門医を輩出できていない。
宮崎大学	インテンシブコースから専門医取得を目指す医療人が出たことは評価したい。学生としてはR2に修士課程に2名入学しただけである。博士課程の学生が全く確保できなかった。今後の努力に期待したい。
鹿児島大学	一定の学生数は確保できた。がんゲノム医療拠点病院としてのエキスパートパネルを利用してがんゲノム医療を教育しているとのことだが、専門医の取得にはつながっていない。
琉球大学	コーディネーターが保健学研究科の所属のため、博士課程の学生が2019年度に1名確保できたただけであった。医学研究科でのがん医療の教育体制の構築が必要と思われる。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

令和4年3月11日（金）開催の「最終評価会」での発表内容、配布資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	眞嶋朋子
-----------	------

## 1. 5年間における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	b
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	b
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
<p><b>評価できる点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に自己評価されており、課題が明確になっている。</li> <li>・教育プログラム・コース（インテンシブ以外）受け入れ目標が、65名であり、R3の受け入れ実績が60名と少ないが、R2に比べ人数は増えている。</li> <li>・新ニーズに対応するがん医療人養成インテンシブコースについて受け入れ目標20名のところ、受け入れ実績59名と大幅に増えている。新しいe-learningの収録（ゲノム、小児・AYA 希少がん）の収録も順調に進められている。</li> <li>・九州がんプロ学生、修了生に対し、「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書」の作成支援を実施し、丁寧に症例の査読や指導が行われ、合格に導いており、専門医のみならず、がん看護専門看護師の資格取得に尽力されていることがうかがえる。</li> <li>・拠点内の連携のために3地域に分けて活動されていることは確認できた。</li> <li>・看護系については、もともとの目標数が少ないが、宮崎大学のがん看護専門看護師養成コースは目標に到達しており、さらなるリクルートが期待される。琉球大学が沖縄県立看護大学との連携を図られていることから、がんプロの成果が国立大学以外の大学にも広がっていることが期待される。</li> <li>・九州大学の事務局スタッフによるSNSの情報収集、発信が積極的に行われている。</li> <li>・各種講演会等を通じて多くの専門職、市民を巻き込んだ研修を行っており、コロナ下の状況にありながら、成果を出していると評価する。</li> <li>・希少がんセンターの設置とがんセンターの共催での事業を開始しており、がんプロの成果として評価できる。</li> </ul> <p><b>来年度に向けて改善すべきこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もライフステージのみならず、多職種人材育成の充実を図っていただきたい。看護においては、放射線看護領域の専門看護師や、特定行為研修を修了した看護師ががん患者の看護の専門性を発揮できるように、がん看護の教員確保、教育の充実を図っていただきたい。</li> <li>・インテンシブコースの需要は高いが、修了するまでの支援が難しいと推察されるので、インテンシブコースのあり方について改善が必要と考える。</li> </ul>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	教育プログラム・コースの受け入れにおいて本がんプロを牽引している。先端医用量子線治療コースやゲノムのコースは受け入れが目標を超えており、本がんプロ拠点の重要なコースであり、需要があることがうかがえる。事務局の情報発信力も優れている。会議のオンライン開催や、合同研修など継続的な計画があり、今後も充実した活動を期待する。
福岡大学	コロナ下で、当初計画が実行できていないが、AYA 世代に多い婦人科がんの専門医演習など、心理社会的な支援が必要とされる領域について、高齢者のがんリハビリテーションなども併せて、積極的実施できている。がんプロ生が少ないが、院内の研修の充実が図られている。
久留米大学	がんゲノム医療拠点病院として遺伝カウンセリングなどのシステムを構築している、久留米ネットワークとがんプロフェッショナル養成プランとのコラボレーションセミナーを通じて看護の実践力向上を図っている、ことなどが評価できる。今後は臨床現場で働く専門看護師資格を有するがん看護の教育者・研究者・教育者の養成にも力を入れる必要がある。
佐賀大学	小児のゲノム医療について個別の患者対応をし、他の診療連携拠点病院との連携を行うことができている。臨床腫瘍班を作り、多職種連携を構築しており評価できる。大学院生のがんプロのリクルートについて課題を示されている。大学院入学者のみでなく現任教育を中心にインテンシブコースなどを提供できるよう多様な人材養成を継続しており、継続して取り組む必要がある。
長崎大学	長崎大学として、達成目標 1、2、3 が達成されており、ゲノム、多職種連携、在宅医療など幅広い内容の教育が展開されていることが評価できる。遠隔通信システムを用いて、他大学や病院との連携など積極的に行っていると評価する。
熊本大学	新規コース受け入れ数やがん薬物療法セミナーの開催、消化器がんに関するセミナーなど、成果が上がっている、特に評価できる点としてはオンラインセミナーを県外の研究者医療関係者を対象に行ったことであり、評価ができる。インテンシブコースの参加者について、継続的に実施を検討されていることを評価する。
大分大学	がん専門看護師の教育に力を入れ、教育展開、修了生の輩出などが今後期待される。がんプロ1、2期の修了生ががん診療連携拠点病院で、実習指導をされるなど、がんプロの成果が継続して表れている。ゲノム医療の基礎研究臨床研究の教育の対象者は、教育の波及効果などの評価を今後検討することが必要。
宮崎大学	がん看護専門看護師の教育については、力を入れて行っており、準備期間であったと思われるが、今後の修了生の活躍が期待される。また、評価できる点はがん看護研究会のホームページ上でがんプロ講演会を掲載したり、大学のポータルに案内を掲示して参加者を集めるなど、幅広い情報公開を行っているところである。今後も引き続き教育や研修会の内容を医療施設、地域、周囲の診療連携拠点病院に提供されることが期待される。
鹿児島大学	目標に比して、大学院生の受け入れが困難であったことがうかがえるが、「鹿児島県がん・生殖医療ネットワーク」への協力によりAYA世代のがん患者への支援を多職種で行うための連携が始まっており、ゲノムや新しい治療に対する多職種での学習が広がっていることが評価できる。放射線看護専門看護師の連携についても独自の活動が評価できる。
琉球大学	沖縄県立大学との単位互換など看護系大学の先駆的取り組みであり、評価できる。緩和ケアエキスパートナース養成コースでは目標を達成しており、評価できる。今後は引き続き学生の受け入れを拡大していただきたい。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

令和4年3月11日（金）開催の「最終評価会」での発表内容、配布資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	石澤 啓介
-----------	-------

## 1. 5年間における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	a
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	a
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	a
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
<p>九州内の10大学が連携して、ゲノム医療、小児・AYA 世代・希少がん、ライフステージに応じたがん医療に対応できる多職種の人材育成に取り組まれています。参画大学を3つ（北部、西部、南部）に分け、エリア拠点を中心として事業等の集約を行うことにより、広い九州における大学間連携を効率的に運営できています。また、事業運営推進協議会のもとに、エリア部会、eラーニング運営委員会、事業継続のための検討委員会を設置することで、各大学の活動等が情報共有しやすい仕組みが作られています。</p> <p>令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、対面講義・演習などの実施が困難な状況となりましたが、遠隔通信システム等を活用して大学間連携、多職種連携体制の構築と情報発信が実施されています。九州大学に設置しているeラーニング支援室を環境整備することで、全国eラーニングクラウドへ提供する講義の収録・編集・公開を実施し、九州内の多様な新ニーズに対応できるがん専門医療人の養成に尽力されたことは特に優れている点です。またインテンシブコースを開設し、多職種の医療従事者に対して専門領域の知識や最新情報を提供されていることも評価できます。</p> <p>九州がんプロ各施設間の情報交換を行うことを目的として、「九州がんプロ全体研修会」が毎年開催されています。また、ゲノム医療を適切に実施できるがんプロ履修生を育成するため、講義やがん遺伝子パネル検査に関する実習、エキスパートパネル参加など、多職種連携の仕組みが構築されたことも評価できます。</p> <p>全体的に本取り組みは順調に実績を積み重ねられており、優れた取り組みであると評価します。本事業終了後も現在途中の履修生に対しては、各大学において継続して教育いただきたいと思います。令和4年度以降の活動についても、確立したオンラインシステムを利用して大学間連携を継続し、がん専門医療人の養成に努めていただきたいと思います。また今後も継続的に、ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集・発信することが望まれます。さらに、一般市民を対象とした市民公開講座などを開催することで、広く最新のがん治療を情報発信することも期待されます。</p>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	エリア拠点として九州がんプロの活動の取り纏め役を担当されています。当初の目標より多くの履修生を受け入れ、がんプロフェッショナル養成プランに重点を置いてテーマを設定し講義を行い、がん診療への理解を深めたことは評価できます。今後も本取り組みで構築した仕組みを活用して、継続的ながん専門医療人育成が期待されます。
福岡大学	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コースを設置し、AYA世代に多い婦人科がんの専門医育成に取り組んでいます。今後は大学院生の確保および腫瘍内科医、放射線治療医を目指す人材育成にも努めていただきたいと思います。
久留米大学	久留米ネットワークやがんプロフェッショナル養成プランを活用して、人材育成に努めています。今後は広報活動等を通して、大学院生のさらなる確保が望まれます。
佐賀大学	履修生が、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医専門医、血液内科専門医を取得していることは評価できます。今後はがん治療に関わる多職種の人材育成が期待されます。
長崎大学	エリア拠点として事業の推進に貢献されています。大学の特色を活かして在宅医療や離島・僻地実習など特徴的な取り組みを実践されていることは評価できます。今後もe-learning活用して多職種人材養成を推進していただきたいと思います。
熊本大学	5年間で38名の履修生を養成し、多数の専門医資格（外科専門医18名、がん治療認定医19名、消化器外科専門医8名、消化器病専門医5名、消化器がん治療認定医2名）を取得したことは評価できます。今後、一般市民にも広く最新のがん治療の情報を発信し、地域との連携をより一層深めることが望まれます。
大分大学	5年間で博士課程37名、修士課程6名を輩出し、がん・ゲノム医療における人材育成に努めています。今後も、行政と連携して一般市民にもがん医療に関する情報発信をしていただきたいと思います。
宮崎大学	がん看護専門看護師養成コースを中心として、講演会活動など活発に実施されている点は評価できます。今後は地域のがん治療において、がん薬物療法専門医の育成を推進することが期待されます。
鹿児島大学	エリア拠点として事業の推進に貢献されています。がんゲノム医療に関する教育体制が充実しているなかで人材育成に取り組んでいます。今後もがんゲノム医療拠点病院として、多職種人材養成に努めていただきたいと思います。
琉球大学	緩和ケアエキスパートナース養成コースにおける特色のある取り組みにより、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師の育成が実践できている。今後は広報活動を通じて、がん薬物療法専門医の養成を推進することが望まれます。